

若葉が丘だより



医療法人社団 若葉会
介護老人保健施設 若葉が丘
〒224-0057
横浜市都筑区川和町2674-1
℡ 045-948-1281
発行 平成29年9月

残暑が厳しい季節になってまいりました。また、熱中症のリスクも考えていかなければならぬ気候でありますので、屋内外問わず、水分補給に努めていただけすると幸いです。

医療法人社団若葉会は地域の方に支えていただきながら、つづき病院は32年目、老人保健施設若葉が丘は16年目を迎えます。この場をお借りして感謝の意をお伝えさせていただきます。

近年、政府は「超高齢化」や「2025年問題」の医療介護問題を取り上げられています。来年度から医療から介護への転換の動きがスタートしていきます。代表例として、介護医療院という医療ニーズの高い高齢者を受け入れる新類型の医療型施設の開設です。医療では、急性期・回復期・慢性期とあります。国は慢性期を介護保険で対応させて医療費を抑えようという考え方の一環であると思われます。ただし、介護保険への負担が大きくなることも問題ですが、高齢者に適切なサービスを提供する上で、介護保険枠内で抑えきれず、自己負担が発生する状況が多くなるのではと不安視しております。また、最近の傾向として、特養、グループホーム、有料老人ホーム、サービス高齢者住宅が乱立状態となっています。横浜市では今後も特養を増やしていくという計画もあります。しかし、施設を単に増やせばいいという考えには疑問を感じます。増やせば増やすほど、介護職員も必要になってきます。現状、介護職員が足りないといわれている中、施設を増やすことで、サービスの低下を及ぼしかねないという不安があるからです。働き手の確保にも、もっと着目するべきだと考えます

当施設は介護老人保健施設です。介護老人保健施設は様々な役割を行う施設ではございますが、1つの役割として在宅復帰という取り組みが行われています。医療機関から、直接自宅に帰ることが出来ない方が、生活リハビリを行い自宅に帰るという、医療機関と在宅との中間施設の立ち位置です。しかし、現状様々な事情で他の選択肢を選ばなければならぬのも事実としてあります。そうした中で、その方はどこで生活したいのだろう、どこで最期を迎えるのだろう、それが本当に適した場所なのだろうか、常に自問自答を繰り返しています。

より良い在宅生活を送るために、地域全体で近所付き合いの大切さ、次世代との関係性の構築をしていくなど、地域の基盤を作ることがまず大切であると考えます。また、一人ひとりに適した場所を選択するためには、地域に存在する様々な施設の役割を知っていただくことが重要です。私ども若葉が丘も地域の中の一つの力でありたいと思っています。何かお困りのことがあれば、相談していただけたらと思います。

最後に、当施設は退職者が少なく、在職期間が長い職員が多い施設です。そういう環境の中、多職種協働し在宅復帰も推進していますが、身体の状況に応じては看取りという選択肢も考えながら、ご利用者様の様々なニーズに沿った、医療・介護を提供していきます。今後とも地域の皆様と寄り添い、利用して頂ける法人を目指していきます。

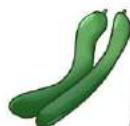
夏の思い出

まずは七夕



やはり、女性は綺麗なものを見ると目が輝きます！男性も負けずにこの笑顔！！

続いては夏の収穫！



今年は胡瓜とトマトがたくさん実り
皆さんと一緒に美味しくいただきました♪

最後は流しそーめん！！



今年で2年目になる流しそーめん！
お供は、やっぱりビール！！ノンアルですけどね…



この他にも、9月号には間に合わなかったですが、恒例の夏祭りも実施しました！
今年は雨続きで気持ちがスッキリしない夏でしたが、ご利用者様の笑顔はいつも変わらず、いっぱい
見ることができました！これからも、この笑顔を引き出せるよう、いろいろなイベントを企画してい
きたいと思います。

😊老健大会に参加してきました😊

若葉が丘3階

老健大会とは、日頃提供させて頂いているサービスやケアを研究し、施設間での情報の共有や、知識を深め合う為の場として、横浜市では1年に1回行われています。



若葉が丘3階でも日頃行っていることの中から、水分提供について焦点を当て、『かき氷はじめました』という演題で、平成29年7月8日（土）に発表をさせていただきました。

“トイレに行く回数が増えてしまう” “日々こまめな水分摂取が習慣付いていない”など、その背景は様々ですが、脱水傾向になってしまふと、食思不良だけでなく、便秘や意識の混濁、生命の危機にもなりかねません。そこで、レクリエーションで好評だったかき氷の提供を始めてみたところから、今回の発表に繋がっています。



施設内は空調管理を行っておりますが、暑い日が続いています。食事やおやつの時に提供する“その1杯”がなかなか飲み切れない方も多く、日々提供・促しの工夫を行っています。ご家族様がご面会の際は、是非ともご本人様のお好きな物をご家族様と一緒に、ゆっくり飲みながらお話しする時間を設けて頂けると、私たちも嬉しく思います。

最後になりましたが、今後も3階スタッフ一同、皆様に喜んで頂けるようなサービスを心掛けて参りたいと思います。

老健大会に参加してみて

排泄委員会

若葉が丘2F排泄委員会では、平成29年7月8日（土）にパシフィコ横浜で行われた、第15回横浜市介護老人保健施設研究大会にて発表を行いました。

題名は“失禁量を量ってみた”。

若葉が丘2Fに入所されているご利用者様の失禁量を量ることで1人ひとりに適正なパッドを選定することを目的としました。



- 失禁量が多い時間の前にトイレ誘導
- 皮膚トラブル時に交換回数を追加

パッドへの失禁量が減る

- ◆ 清潔保持
- ◆ 皮膚トラブル回避
- サイズダウン
- コストダウン

今回の“失禁量を量ってみた”結果から、定時のトイレ誘導だけでなく、失禁量の多い時間の前にトイレ誘導を行うことでパッドへの失禁量を減らし、トイレでの排尿を促すことが出来ました。

また、ベッド上でパッド交換を行う方も、定時のパッド交換だけでなく、尿量の多い場合や皮膚トラブルが起りそうな場合にも交換回数を追加することで、濡れたパッドが皮膚に触れている時間が短くなり、清潔保持や皮膚トラブル悪化防止にもつながりました。



家族の生活リズムに合わせた排泄ケア

施設でも同じリズムで検討・実行

在宅復帰に有効活用

若葉が丘では6月より在宅復帰支援型を算定することになりました。

外出・外泊・在宅に向けて、ご家族の生活リズムに合わせた排泄ケアを施設でも検討・実行することで、ご家族様・ご利用者様に負担のない排泄ケアをご提案させていただきますので、ぜひお気軽にご相談ください！



☆通所リハビリ☆



毎日暑い日が続いておりますが、皆様いかがお過ごでしょうか？
少しでも涼しげに過ごして頂ける様にという事で、今回は「流しソーメン」を企画致しましたので、その模様を御報告致します。



始まる前の皆様の表情です。ソーメンが流れてくるのが楽しみですね。



皆様大変よく召し上がって頂き、楽しんで頂けた様です。

ソーメン以外にもトマトや玉子、みかん、ゼリーなどいろいろ流れてきました。

9月以降のイベント情報です。

10月 運動会

12月 クリスマス会



となっております。なお、9月号発行時には終了していますが、8月には夏祭りも催されています。また、各イベントでは皆様の御参加も職員一同お待ちしておりますので、是非遊びにいらしてください。



若葉が丘 リハビリ室

テーマ：

老人保健施設における ST(言語聴覚士)の役割とは？

こんにちは、リハビリテーション科 言語聴覚士の 大平 和佳子です。

リハビリといえば、歩く・トイレへ行く等の日常生活の中での動作の訓練やストレッチ・体操を思い浮かべる方が多いかと思いますが、言語聴覚士は主にコミュニケーションや飲み込みに関するリハビリを行っています。

今回は、施設における言語聴覚士がどのような内容を行っているかを説明させて頂こうと思います。

①言語機能訓練

…脳梗塞や頭部外傷で、脳の言語を司る部分が傷つくと、言葉が出辛くなる・言いたい言葉とは別の言葉を言ってしまう・言葉が分かりづらくなるといった症状が出る場合があります。これらの症状を改善するための訓練(例：絵カードの選択、同じ言葉を繰り返し言って頂く、字を書く等)を行います。

②発声発語訓練

…舌がうまく動かなくなったり、上あごの筋肉が低下したりすることによって呂律が回らなくなり言葉が聞き取りづらくなってしまう場合があります。そこで、舌の動きや唇の動きを良くするための筋力訓練を行います。(例：口を開け閉めする、頬を膨らませる等)

また、苦手な発音を中心として単語や文章の発話訓練を行うこともあります。

③認知機能訓練

…認知症の進行予防に脳の活性化を図る訓練です。簡単な読み書きや計算、塗り絵や折り紙、音楽を聴く・歌う、回想法といった内容があります。

④嚥下訓練

…飲食物を口に取り込む、咀しゃくする、飲み込む等、食べることに関わる訓練です。姿勢や食事形態の調整など安全に食事を摂取するためのポイントなども指導します。

⑤補聴器のチェック

…若葉が丘には月に一度(基本的には毎月第3木曜日の 11:00~)神奈川リオン補聴器センターの方が見えており、無料の補聴器修理や点検・補聴器の購入相談をお願いしています。その際の仲介を行っています。

主には上記の内容を行っていますが、その他にも口腔ケアや御家族様・他職員の方への症状の説明や助言等で関わらせて頂いています。言語聴覚士1人の職場ではありますが、先生や看護師さん、同じリハビリ科の方や介護士さん、相談員さん皆さんに色々と相談をさせて頂くことで日々の業務をこなすことが出来ているので、本当に感謝しています。これからも言語聴覚士としての技術を磨き利用者さんのお役に立てるよう頑張っていきたいと思います。



地域包括ケアシステムについて

平成29年(2017年)介護保険制度改革では地域包括ケアシステムの強化のための介護保険法等の一部が改正されます。

(目的)

高齢者の自立支援と要介護状態の重度化防止、地域共生社会の実現を図るとともに、制度の持続可能性を確保することに配慮し、サービスを必要とする方に必要なサービスが提供されるようにする。

＜改正する法律案の概要＞(一部抜粋)

・地域包括ケアシステムの深化・推進

- 1 自立支援・重度化防止に向けた保険者機能の強化等の取組の推進(介護保険法)
- 2 医療・介護の連携の推進等(介護保険法、医療法)
- 3 地域共生社会の実現に向けた取組の推進等(社会福祉法、介護保険法、障害者総合支援法、児童福祉法)

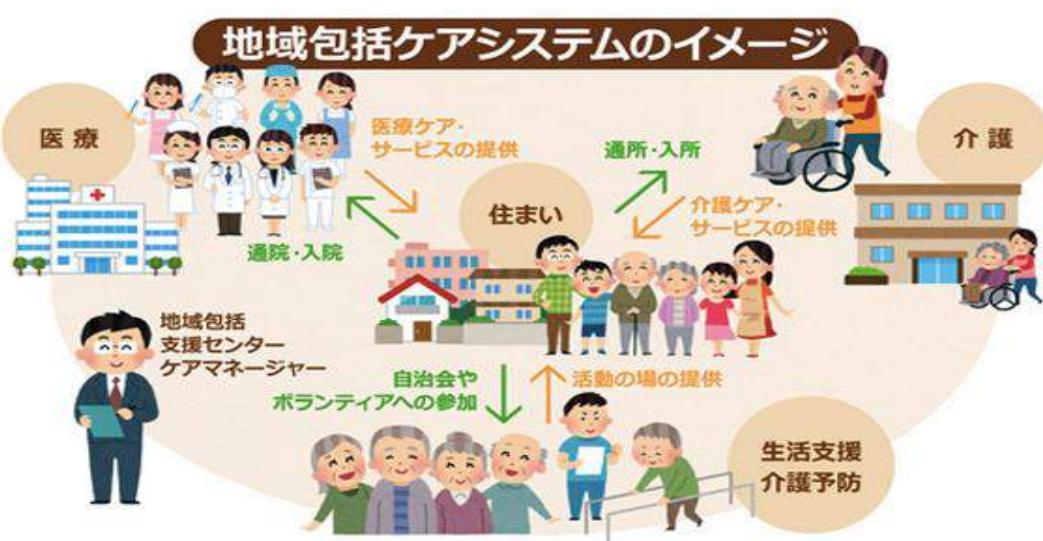
地域包括ケアシステムとは…

○ 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目指しに、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現**していきます。

○ 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。

○ 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差**が生じています。

地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていく**ことが必要です。



今後、増加した医療費を抑制する為、病院の入院期間の短縮化が進んでいます。その為病院を退院後、在宅医療へのニーズが増えてきています。介護老人保健施設は在宅医療を受ける高齢者の受け皿としての役割が期待されています。当施設でも在宅療養支援、在宅復帰支援に取り組んでおり デイケア、ショートステイ等の利用により在宅生活の負担軽減を図るご支援をさせて頂きます。

若葉が丘 スタッフ紹介

通所リハビリテーション&若葉が丘2F



須田 達也 (すだ たつや)

通所リハビリスタッフ

生年月日：昭和44年5月1日

出身地：宮城県

職種：介護士

勤務歴：1年

[この仕事に就くまでの職業経験は？]

今までの仕事がどちらかというとパソコンなど機械に向き合うことが多く、孤独な仕事でした。人と関わる仕事がしたいのと、介護にも興味があり、将来の親のことも考えて、知識があった方がいいと思い、この仕事に就くことを決断しました。

[仕事の大変な所やうれしかったことは？]

話がうまくないので、ご利用者様とどんな会話をすれば良いのかが始めの頃はわからず、一番難しかったです。ただ、色々な話をしていくうちに、ご利用者様のことを知ることができたり、自分の名前を覚えてもらえた時は嬉しかったです。

[忘れがたいエピソードは？]

忘れ去りました！過去は振り返りません！！

[将来の夢は？]

億万長者を目指してやってきました！まだ諦めていません！
いつの日か左うちわで過ごせることを夢見ています！！

村上 郁哉 (むらかみ ふみや)

入所2Fスタッフ

生年月日：秘密です！

出身地：神奈川県

職種：介護士

勤務歴：1年



私が小さい時に母がデイサービスで働いていて、現在は父が介護老人保健施設で働いており、両親に勧められたのがきっかけです。

[仕事に就いたきっかけは？]

大変なことは…たくさんあります（笑）

だけど、ご利用者様に笑顔で「ありがとう」と言葉を掛けられると疲れも吹っ飛びます！！＼(^o^)／

[仕事の大変な所や嬉しかったことは？]

愛し愛され生きていきたい！！

[将来の夢は？]